

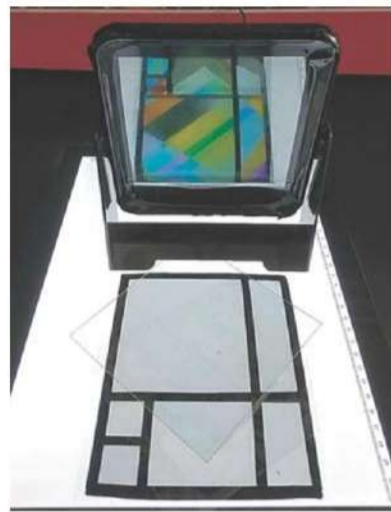
突然ですが、写真を見てくださ
い。何か不思議なことはありませんか？ 手前にあるのは白黒の
板、そして、奥にあるのは鏡。よ
く見ると鏡の中だけ色がありま
す。これは「不思議な鏡」という
偏光板を使った鏡の中だけカラ
フルになる教材です。私が開発し、
科学番組の120秒の科学(テレ
ビ大阪)や京都市青少年科学セン
ターの展示品で採用していただき
ました。

② 母の戦略に感謝

これは、光の性質が深く関わっ
ているのですが、皆さんお分かり



大阪成蹊大准教授 福岡亮治



になるでしょうか？ 詳しくお知
りになりたい方は、京都市青年
科学センターに行って詳しい原理

を聞いてみてください。
私は、このような教材を発明す
ることが大好きで、そのきっかけ

は私の母です。私の
育った家は、プロパ
ンガスを使用してい
ました。大阪市内の
狭小住宅で庭もない
家だったため、屋内

用の小さなボンベを
月2回交換する必要
がありました。交換
後は常に母親に呼ば
れ、ガス漏れがないことを匂いで
確認していました。



「一緒に考えて」頼られる喜び

母は「わからない」「どうし
よう？」「一緒に考えて」が口癖
で、何でも頼ってきます。一方、
私は「安全確認」という責任のあ
る役割を与えられ、子どもながら
に頼られることに喜びを感じてい
た記憶があります。



ある日、水漏れにより、洗濯機
が使えなくなりました。母親は、
いつも通り「どうしよう？」と機
械に詳しいわけでもない6歳の私
を頼ってきます。とりあえず、母
親と洗濯槽を分解し、ゴムパッキ
ンの劣化を発見。その外側に数本
の輪ゴムをかけ補強することで修
理に成功しました。

したり、発明したりしています。
大人になり、このエピソードを
母親にしたところ「あー、あの輪
ゴムはすぐにダメになったからこ
っそり業者にパッキンを交換して
もらった」という回答が。「今
まで直したと信じ込んでいました
よ、お母さん」。しかし、私の
将来を決めるほどのすてきな母親
の戦略に感謝です。「頼る」「任
せる」というのは、子どもを前向
きにさせる育児のキーワードの1
つ。「わからない」「どうし
よう？」「一緒に考えて」で子どもた
ちに頼ってみてください。教える
以上に、たくさん事を学んでく
れるかもしれません。